

MRJ の動翼設計にジャムコが参画
炭素繊維複合材技術で軽量化に貢献

三菱航空機は、開発を進めている次世代のリージョナルジェット機 MRJ (Mitsubishi Regional Jet) の動翼設計で、ジャムコ (東京都三鷹市、寺田修社長) の参画を決め、このほど同社と契約を結んだ。ジャムコの派遣技術者チームを約 1 年間受け入れ、すべて炭素繊維複合材を使った軽量かつ高強度な、エルロン (補助翼) と主翼上面に取り付けるスポイラーを、共同で設計する。世界最高レベルの運航経済性実現に向け MRJ の機体軽量化を目指す当社と、航空宇宙機器・部品の製造分野で事業領域拡大を狙うジャムコ、両社の思惑が一致し、パートナーシップが成立した。

ジャムコは 1955 年に伊藤忠航空機整備株式会社として設立。航空機整備のかたわら航空機内装品や航空機器・部品の製造も順次手掛けてきた。同社は航空機内装品では旅客機の化粧室設備で世界シェアは約 50%、ギャレー関連では同約 30% を占める。航空機器・部品の製造では特殊金属の溶接・熱処理・ろう付け・非破壊検査などの特殊工程技術を持つほか、機体軽量化に不可欠な炭素繊維複合材 (ADP: Advanced Pultrusion) 関連技術の蓄積と関連設備投資にも積極的で、空力特性など厳しい条件が要求される主要部品への参入を模索していた。

当社はわが国で初めてジェット旅客機の全機組立・販売事業を担う企業として 4 月 1 日から事業を開始した。当社が開発する MRJ は、世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた 70~90 席クラスの最新鋭小型ジェット旅客機。リージョナル機として初めて主翼、尾翼に複合材を本格的に採用、新型エンジンの搭載や最先端の空力設計などとも相俟って、燃費の大幅な低減を実現、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献することを目指す。

なお、MRJ プロジェクトには、最新鋭の高効率エンジン「Geared Turbofan™」を供給するプラットアンドホイットニー (Pratt & Whitney) のほか、パーカー・エアロスペース (Parker Aerospace、担当: 油圧システム)、ハミルトン・サンドストランド (Hamilton Sundstrand Corporation、担当: 電源、空調、補助動力などの各システム)、ロックウェル・コリンズ (Rockwell Collins、担当: フライト・コントロール・コンピューター、アビオニクス)、ナブテスコ (担当: フライト・コントロール・アクチュエーター)、住友精密工業 (担当: 降着システム) の各社が主要なパートナーとして参画することがすでに決定している。

【注】

●エルロン

航空機を横転（バンクまたはロール）させるために使う動翼で、主翼の後縁を構成する。

エルロンの後縁側を上下させることで揚力が増減し、機体が傾く。

●スポイラー

主翼の上面に、エルロンと隣接して取り付けられる動翼。

起立させることで主翼の層流を乱し、揚力を減らす。航空機を降下させたり、着陸時に速度を落とすために使われ、機体を横転させる際にエルロンと組み合わせたり、エルロンに代わって使われたりする。

お問い合わせ先：三菱航空機株式会社 営業部 営業企画グループ（052-611-2213）

以 上